

ホーム名:グループホーム(いこい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者様の思いをくみ取り、思いに沿い、寄り添ったケアをしている。</p>	<p>理念の文言三ヶ条はグループホーム玄関入口と各ユニットのフロア内に掲載され、職員への再認識と周知が図られている。主旨とするところは、利用者を中心とした支援に徹する事とされている。またより具体的な内容のスタッフ理念も策定されている</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>散歩時などは、地域の方を見かけたら積極的に挨拶をするように心掛けています。今年から、祭りなどが開催されました。グループホームの前で、子供たちによる太鼓の演舞を、熱心に見て喜ばれていました。</p>	<p>ややコロナ渦が鎮静化し始めたかのような状況であるが、従来の様な活動は自重されている。それでも安全な範囲内ではあるが、地域の人との短い自然な会話などはされている。また、地元の祭りの演舞もホームでなされたりしており、徐々に回復傾向にある事が確認されている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議で、認知症についての発信を心がけている。</p>			
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、そこで得た意見を再検討し、サービスの質の向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議参加者は、家族会長、包括支援センター職員、民生委員、市役所介護課職員、歯科衛生士、施設関係者等、多岐に亘るメンバーでありその分、開かれた事業所と判断されよう。利用者にとって快活な意見交換と審議が期待されよう。</p>		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>研修等があれば積極的に参加するようにしている。介護保険制度等について分からないことなどは、直ぐに連絡し尋ねる様にしている。</p>	<p>市の介護課の職員を推進会議に招かれ、事業所の運営の一部に携わってもらっている。また、市で開催される事業所部会連絡会に毎回参加し情報交換され積極的な関わり合いを展開されている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、身体拘束はなぜしてはいけないのか、身体拘束での方法しかないのか等を話し合い、6か月に1回発表会にて報告してもらっている。</p>	<p>重要事項や運営規程に基づいた拘束禁止の条項を遵守し、利用者の安全で身体的な自由が確保されるような支援を目指している。身体拘束委員会の設置をされ、活動されている。玄関の施錠は不審者の侵入を防止する為のものであり、利用者が望めば職員と共に外出できる。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会を設置し、虐待が起こっていないか、虐待を見逃していないかなどに注意を払い、防止に努めている。また、6か月に1回発表会にて報告を行う。また虐待防止についての研修も実施している。</p>			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等で、権利擁護や成年後見人制度について学んでいる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時等は、利用者様や家族様が理解し納得の行くまで説明している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当者会議前やケアプラン説明時に利用者様や家族様に希望や要望、意見があればいつでも変更できるので、知らせてほしい旨、伝えている。</p>	<p>家族の意見や要望は職員やユニットリーダーを通じて把握されている。家族とは何時でも話せやすい雰囲気になっている。その為か意見箱の利用はあまりされていないようである。管理者はその報告を受けて、可能な形で運営の反映に努めている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期ミーティング時、各個人の意見や提案を発言する機会を設けている。</p>	<p>職員との会議での意見聴取はもとより、個人的な面談時の意見や提案も積極的に取り入れるようにして、運営上の支援に反映出来るように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努力や実績が認められた場合は、給与及び評価として賞与に反映される。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、職員研修を行い、職員全体のスキルアップに努めている。定期的なフロア会議でも、個々のスキルアップに繋がるように、技術や知識の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>外部研修等には積極的に参加し、他施設と交流できる機会を作り、意見交換をしサービスの向上に努めている。</p>		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談に積極的に向き、時間をかけ何気ない会話からご本人の不安に思っている事や困っている事等のヒントを得られるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様とは、頻回に面談や電話等で密に連絡を取るようになっている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況を十分に検討し、入居以外の方法も助言している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご自身で出来ることはして頂き、出来ない事についても声掛けを行い、ゆっくりと本人主導の介護を行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様に変化があった場合等には、すぐに連絡を取り、報告や要望を聞いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>オープンなホームを目指し、今までの交流が途切れないうにバックアップしている。</p>	<p>知人との通信や訪問の受け入れなどは常に門戸を開いている。現状では利用者の加齢や認知症の度合いによっては自発的な要望は殆ど見受けられなくなっているが、これまでの関係継続についてはこれからも支援していく態勢には変わりはない。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士がコミュニケーションをとれるように席の配置や、レクリエーションを考え、交流しやすい環境作りに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も家族様には近況確認を尋ねる為に、連絡し関係の維持に努めている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とコミュニケーションを頻回にとり、思いやどんな暮らしがしたいのかをくみ取り、ご本人が望む暮らしができる様に、職員間で共有し支援している。	利用者の個性を知るうえで一番大切なものはコミュニケーションである事はスタッフもよく理解されている。ADLの記録も参考にされたりして、本人が発する事の出来ない思いをくみ取るように努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居される時に、それまでの生活歴や生活環境等の把握に努め、職員間で情報を共有し、その人らしい生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを開催し、個々の日々の過ごし方や、心身の状態等の確認をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のその人らしい生活を送れる様に、家族や職員、主治医や看護師等に意見やアイデアを頂き介護計画を作成している。また、変化があった場合は見直しし、その現状にあった介護計画に変更している。	モニタリングやADLから得られた結果や平素の状況を観察された結果等を利用されている。情報は検討し合い、介護計画案として練り上げ、家族に提示し、意向も取り入れて同意された上で介護計画書として完成させている。期間は3か月とするも状況によっては随時見直しはされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身の状況等は、個人のケア記録に記入し、カンファレンス時に計画の見直しを行う時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、家族様の負担が軽減できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回、消防署より消防訓練に来て頂ける様に努め、利用者様が安心して暮らしていける環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、訪問介護がある。利用者様、家族様同意のもと、24時間体制で診てもらっている。入所時よりのかかりつけ医がおられる方は、希望により継続していただいている。	事業所には協力医があるが、入所以前からのかかりつけ医を希望されている方にはその関係が継続されるようされている。利用者の安全確保の為、月2回の訪問診療と訪問介護も行われている。緊急時には24時間体制である為に安心である。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>隔週で看護師が来て下さり、利用者様の状況を報告し、相談・助言を頂いている。体調等に変化があった場合は、すぐに連絡し指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者様が入院した際は、病院の相談員の方と頻回に連絡を取り、現在の状況を確認している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医を中心に、訪問看護師、ホームスタッフ、家族様と連携をとり、利用者様に合った方針を考え支援している。</p>	<p>入所時には重要事項説明書を読み上げて説明されており入所後の方針を理解されている。重度化され始めた頃からは再度、今後の方針を主治医と話し合われるようにされているし、家族の要望もよく聞かれている。、事業所内での支援については看取りを希望されるか、あるいは、治療や療養入院かを決めてもらい同意書にも署名してもらっている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時のマニュアルがある。また、何かあってもすぐに対応できるように職員研修にて、講習をしている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>水害や地震等の自然災害が起こった時の為に、避難訓練や垂直訓練をしている。また、運営推進会議にて、災害時は地域の皆様の協力が得られるように働きかけていく。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施している。内一回は消防署員の立ち合いを得て指導してもらっている。火災時の想定では利用者全員が建物の外に出ている。水害対策としては建物が鉄筋である事から3階への避難を考えている。運営推進会議で地域の協力も求められている。</p>	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の対応中は、他者から見えない、聞こえない様にプライバシー確保に努めている。	利用者の立場で考えるようにされている。特に言葉使いの影響力の大きさをよく勉強されており職員にも常によく指導されている。トイレ誘導には特別の心くばりをされておりプライバシーの確保に務められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションをとり、信頼関係を築きご本人が希望や思っている事を言い出しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が、1日ご自分のペースで過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日整容はしている。ご自分で出来る方は自己にてして頂き、できない方は、職員が支援している。2か月ごとに訪問整容にてカットや顔そりもされている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け以外でも、見た目の彩りや盛り付けに工夫し、食事が楽しくなるようにしている。誕生日には、その方の希望を聞き提供している。また、行事では、行事食も提供している。お手伝いができる方には、準備や食器拭きを中心にして頂いている。	調理された食品を見た目も楽しく食をそるよう盛り付けに工夫を凝らされている。また、その方の好みの料理を出すようにもされている。食事の手伝いができる人は限られているが、小さなことでも何かをしてもらうように考えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の摂取量に応じた盛り付けをしている。また、利用者様の嚥下状態にあった食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを実施している。個々の口腔内の状態に応じたケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄介助の方には、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄をして頂ける様に支援している。	排泄チェック表に従った定期的な声掛け誘導は自立にむけての有効な手段でもあるとされている。事業所の方針として、トイレまでの誘導や、トイレ内での手助けも含め、日常的に排泄への自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤や浣腸の使用が軽減されるように、水分の摂取量のアップや適度な運動に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望に沿って入浴して頂ける様に支援している。湯舟にゆっくりと浸かって頂き、「気持ちよかった」と言ってもらえる様に努めている。	利用者は週2回(一回30~40分程)入浴している。湯はその都度入れ替えされている。最新の機械浴槽も設置されている。入浴を拒む方は時間差で誘うように図られている。季節時にはゆず湯、しょうぶ湯なども楽しんでもらっている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	自由に個々の生活ペースを崩すことなく、過ごして頂いている。		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	薬は、職員一人一人が薬の目的等について薬情報等にて理解している。疑問等があれば、薬剤師に相談している。		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	できる方には、家事作業(掃除・洗濯物干しや洗濯たたみ、食器拭き等)をしてもらい、ご自身の役割として毎日して頂いています。散歩には毎日出かけ気分転換をもらっています。手作りおやつ時は、一緒に作ってもらえるように支援している。		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	受診以外の外出は、まだ控えているが、施設周りや河川敷などへの散歩は、気分転換として行ってもらっている。	コロナ禍がまだ、続いており従来の様な外出支援はまだ、難しいようである。可能ならば河川敷回りも散歩にはうってずけであるが、今は日常的には建物から少し離れた所の、地藏堂がお参りを兼ねての手軽な外出支援先とされている。	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	家族様と相談し、能力に応じた対応を支援している。		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご本人が電話や手紙で連絡を取られる事を希望される時は、やり取りができる様に支援している。		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有空間は、常に清潔を保ち、利用者様の動線は広くとって、安全に移動できるようにしています。掲示物は、季節に合ったものを飾って、季節感を感じて頂いています。トイレは、毎日掃除し清潔を保っていますが、汚染時にはすぐに清掃し、気持ちよく使って頂ける様にしています。	明るさは程よく採光はリビング全体を柔らかく包み、落ち着きを与えてくれる。壁には利用者と職員が一緒に作成した作品が飾られている。共用空間の中は車椅子どうしでも、ゆったりと移動できるスペースがある。全体的にはリラックスできる雰囲気に包まれていて、長時間寛げる場所といえよう。	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者同士が交流できるように、状況に応じて席を変更したりしている。		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自宅で使っていた馴染みの家具や雑貨などを持って来てもらい、今まで暮らしていた雰囲気を作り、居心地よく過ごして頂ける様にしている。	居室には馴染みの家具や好みの物が設置され自分用の部屋作りがなされている。掃除は週3回、シーツ交換は週1回(汚れたらその都度)交換される。利用者にとっては自分だけのプライベートな空間といえよう。	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室には、個々の表札、トイレやふろ場などにも表札をつけ、自立した生活が出来る様に工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない